



東京大学先端科学技術研究センター

東京大学先端科学技術研究センター(先端研)は、1987年に設立された東京大学で最も新しい附置研究所です。従来の大学の殻を破る研究・教育体制の推進拠点として文理融合を実践し、「我が国初」と呼ばれる多くの新制度や取り組みを生み出しています。最大の特徴は、研究者や研究分野の多様性と、臆することなく挑戦する文化にあり、医学・理工系の先端研究から社会科学やバリアフリーなど社会システムに関わる研究まで、40以上の研究室・研究部門が新領域を開拓し、基礎から応用、社会実装を積極的に展開しています。また、東大附置研究所で唯一、博士後期課程(先端学際工学専攻)を有し、イノベーションを生み出す人材育成にも取り組んでいます。



東京大学 先端科学技術研究センター
Research Center for Advanced Science and Technology
The University of Tokyo



K O Y A S A N C O N F E R E N C E 2025

高野山會議

I T A L I A



ITALIA
DIPARTIMENTO DI AFFARI ESTERNI



Consulate General of Italy
Osaka



ISTITUTO
italiano
di CULTURA



Research Center for
Advanced Science and Technology
The University of Tokyo



ADVANCED
ART DESIGN

高野山會議 ITALIA

大阪・関西万博イタリア館

2025年7月26日

KOYASAN KAIGI ITALIA

Padiglione Italia Expo 2025 Osaka, Kansai, Japan

26 Luglio 2025

高野山會議

主催者挨拶 ～高野山會議ITALIAに寄せて～



大阪・関西万博イタリア政府代表

Mario Vattani

Tema centrale del Padiglione Italia all'Expo di Osaka 2025 è l'"Arte che rigenera la Vita". "Arte" intesa in senso ampio, come spinta emotiva e razionale che dal passato ci proietta nel futuro, sintesi di ingegno, tecnica e industria, alla base di quel saper fare che distingue la qualità italiana nel mondo. In questo contesto i temi proposti dal convegno Koyasan Kaigi per la prima volta al Padiglione Italia, offrono un ulteriore spunto di riflessione e dialogo nella costruzione della società futura.

Il coinvolgimento di discipline trasversali attraverso l'esperienza di alcune tra le più importanti voci del mondo della cultura, della musica, del design, della scienza, della filosofia e dell'arte giapponese e italiana e la presenza stessa del Koyasan, luogo millenario, straordinario e fondante dell'insegnamento buddhista shingon, aggiunge al palinsesto del Padiglione Italia un tassello prezioso nello scambio tra le nostre culture e nella costruzione di nuovi modelli educativi.

大阪・関西万博イタリア館の中心テーマは「芸術が生命を再生する」です。この「芸術」とは、私たちが過去から未来へと突き動かす感情的かつ理性的な原動力を表しています。

これは、イタリアの技術、創造性、産業が融合した「匠の精神」の表れであり、世界的に評価されるイタリア品質の核心をなすものです。この文脈において、今回初めてイタリア館で開催される高野山會議が提示するテーマは、未来社会の構築に向けた新たな考察と対話のきっかけを提供するものとなっています。

日本とイタリア双方の文化、音楽、デザイン、科学、哲学、芸術など多分野における代表的な知識人の学際的な対話、そして真言密教の教えを千年以上継承してきた霊場・高野山の存在は、イタリア館のプログラムに価値あるインスピレーションをもたらすとともに、両国の文化交流と教育モデルの創出に貢献します。



東京大学先端科学技術研究センター所長・教授

杉山正和

現代の私たちの生活を支える科学は、人類を取り巻く森羅万象を分析することで発展してきました。しかし、人間の活動が自然の在り方を大きく変えるほどに拡大し、地球温暖化をはじめ未曾有の複雑な問題が顕在化している現在、新たな科学の方向性が求められています。私たちは、二項対立ではなく多元協調的な世界観のもとで、細分化された知識を統合し、地球上の万物の調和と共生を可能にする新たな価値体系を、高野山を舞台に創造しています。今回のイタリア館でのイベントを基点に、私たちの価値創造を世界中の皆様とともに進めていきたいと願っています。

La scienza, che sostiene la nostra vita quotidiana, avanza analizzando le miriadi di fenomeni che fanno parte dell'esperienza umana. Tuttavia, poiché le attività umane si sono ampliate al punto da alterare in maniera significativa la natura dell'ambiente, stanno emergendo problematiche complesse come il surriscaldamento globale che chiedono alla scienza un nuovo orientamento. Per questo al Monte Koya stiamo cercando di creare una nuova rete di valori che integrino il sapere frammentato sotto una prospettiva pluralistica e di cooperazione, che faciliti l'armonia e la convivenza sulla terra.

Desideriamo promuovere la nostra creazione di valore e di condividerla con le persone di tutto il mondo, a partire da questo evento presso il Padiglione Italia.

高野山會議とは

私たちは、科学や技術から多くの恩恵を受け、今の社会を築き上げてきました。一方で、自然に大きな負荷をかけた結果、気温上昇による異常気象、資源の枯渇、さらにはエネルギーの問題をはじめとする地球規模の課題を生み出しました。

この原因の1つは、私たちの自然に対する考え方によるもので、人が自然を制御するという、人を中心(Human-centered)として自然を捉えてきた点にあると思います。一方で、人も自然の一部であり、自然と共に生き、そして生かされているという考え(Nature-centered)も私たちの心の奥底にあるのではないのでしょうか。

多様な人々、そして多様化する社会においては、最適1つの答えを出すだけではなく、場に応じた多様な答えを出していくことが求められています。弘法大師空海は、世の中には無駄なものはなく、あらゆるものに価値や意義があり、それぞれの関係において宇宙が成り立つことを教えてくれます。そして、その思想が1200年にわたり持続的に受け継がれてきた場が高野山です。

科学、芸術、デザイン、哲学、そして宗教など多様な分野に関わる人々が集い対話し、人間性と倫理観ある未来、1200年後の世界を考え、形にする舞台として、高野山は素晴らしい場です。未来の形を皆さんとともに先端研は「高野山會議」として世界に発信していきます。



高野山會議ファウンダー

東京大学名誉教授・東京大学先端科学技術研究センターシニアリサーチフェロー

神崎亮平

総合モデレーター



ミラノ大学准教授・

東京大学先端科学技術研究センター客員准教授

大阪・関西万博イタリア館文化・教育部門代表

Rossella Menegazzo

高野山の外で開催される初の高野山會議は、2025年夏の高野山での本會議に続いて大阪・関西万博のイタリア館で開催されます。

イタリアと日本の関係は深く、常に相互補完の関係を築いてきたため、今回のシンポジウムの開催は大変光栄なことだと感じています。日本美術史と文化を研究するイタリア人学者・研究者として、東京大学先端科学技術研究センター(RCAST)の研究者として、また特に2025年大阪・関西万博イタリア館の文化・教育部門代表として、私にとって今回の任命は特別な意味を持っています。

今回のシンポジウムでは、マンダラと蓮華が中心的なイメージとして選ばれました。マンダラは、真言密教の世界観とアジアにおける精神的な宇宙観を最も魅力的に表現したものです。この曼荼羅図を哲学的な視点から考察し、キリスト教思想やその象徴と向き合うことで、現代への新たな提言を導き出し、今日の価値観を再考し、新しい世界を構築する助けとなるでしょう。自然やいのちの循環に根差した宗教的感情は、あらゆる文化の発展の基盤であり、創造性という人間の原動力を通して、芸術、デザイン、科学において結実し、さまざまな文化や思想を越えて共鳴し、現代の課題に対する新たな視座と可能性を見出します。

この高野山會議は、人間の経験におけるあらゆる分野を繋ぎ、これほど多くの個性豊かな人々を結びつけ、異文化間の議論と、これから私たちが直面する大きな課題への意識を高め、新たなルネサンスを創造することに確実に貢献することでしょう。おそらく空海やイエス・キリストも各々の時代の革新的な思想の中で思い描いていたように。



高野山會議2023

高野山會議 プログラム

ITALIA

高野山會議 ITALIA

「マンダラ いのちの循環_Mandala: disegnare un mondo nuovo」

主催：2025年大阪・関西万博イタリア館代表委員会 / 東京大学先端科学技術研究センター

主管：東京大学先端科学技術研究センター 先端アートデザイン分野

共催：高野山金剛峯寺 / 高野町 / 高野山大学 / 和歌山県 / 橋本市 / かつらぎ町

特別協力：在大阪イタリア総領事館 後援：イタリア文化会館-大阪

イントロダクション デモンストレーション

時間：13時00分～13時15分 場所：ホワイエ

利他の蓮華 ギャラリートーク、花卉の開閉デモンストレーション(5頁参照)

[解説] 神崎亮平 / Ryohei Kanzaki 東京大学名誉教授、東京大学 RCAST 先端アートデザイン分野 シニアリサーチフェロー

オープニングセレモニー

時間：13時30分～14時15分 場所：オーデトリウム

[モデレーター] ロッセッラ・メネガッツォ / Rossella Menegazzo 大阪・関西万博イタリア館 文化・教育部門代表

ごあいさつ 開会

マリオ・ヴァッターニ / Mario Vattani 大阪・関西万博イタリア政府代表

アンドレア・ラオス / Andrea Raos イタリア文化会館-大阪 館長

宮崎泉 / Izumi Miyazaki 和歌山県知事

今川泰伸 / Taishin Imagawa 金剛峯寺執行長、高野山真言宗宗務総長

高野山會議ITALIA開催によせて

杉山正和 / Masakazu Sugiyama 東京大学先端科学技術研究センター 所長・教授

声明 高野山真言宗青年教師会

安藤雄基、森寛晃、藤田竜悠、久野村大輔、伊南和真、上田俊道、辻隆道、木田将亮、杉藤良範、山澤一心

SESSION

時間：14時20分～17時45分 場所：オーデトリウム

[SESSION 01] 14時20分～15時35分 [SESSION 02] 15時40分～16時40分 [SESSION 03] 16時45分～17時45分

日伊友好クラシックコンサート

時間：18時00分～18時30分

場所：劇場

レセプション

時間：18時45分～20時00分

場所：VIP Lounge

SESSION 01 マンダラ 利他の蓮華 _ Il Loto dell'Altruismo

時間：14時20分～15時35分

[イントロダクション] 利他の蓮華 制作解説(5頁参照)

[登壇者] Mandala Shingon e simbologia cristiana: consonanze iconografiche,tematiche e rituali

アルベルト・ロッカ / Alberto Rocca アンブロジーナーナアカデミア アジア学部長

曼荼羅とは何か

添田隆昭 / Ryusho Soeda 高野山大学前学長

宇宙と工芸

吉本英樹 / Hideki Yoshimoto 東京大学RCAST 先端アートデザイン分野 特任准教授 / デザイナー

利他のところ～利他の蓮華:「利他のところ」「いのちの大切さ」を

一万人の子どもたちと大阪・関西万博から世界に発信しよう!～

神崎亮平 / Ryohei Kanzaki 東京大学名誉教授、東京大学RCAST 先端アートデザイン分野 シニアリサーチフェロー

SESSION 02 デザインングサステナビリティ _ Progettare la sostenibilità

時間：15時40分～16時40分

[登壇者] 普遍性のマテリアル「紙」とデザイン

伊藤志信 / Shinobu Ito 東京大学RCAST 先端アートデザイン分野 特任准教授/デザイナー

ソニーオリジナルブレンドマテリアルの開発とサステナビリティデザイン

石井大輔 / Daisuke Ishii 東京大学RCAST先端アートデザイン分野アドバイザー

ソニーグループ株式会社クリエイティブセンター センター長

イタリアにおける紙のリサイクル:循環型経済における優れた実践例

ロレンツォ・ボノ / Lorenzo Bono コミエコ研究開発部門責任者

祈りの再生～広島折鶴 恩返しプロジェクト～

平尾 昭一郎 / Shoichiro Hirao 株式会社日誠産業 代表取締役社長 折り鶴再生「恩返しプロジェクト」

SESSION 03 デザインングインクルージョン _ Progettare l'inclusivita'

時間：16時45分～17時45分

[登壇者] エクストリームスタディからメインストリームデザインを生む

伊藤節 / Setsu Ito 東京大学RCAST 先端アートデザイン分野 特任教授/デザイナー

インクルーシブ・アカデミア:科学研究への障害者の参加

並木重宏 / Shigehiro Namiki 東京大学RCASTインクルーシブデザインラボ 准教授

障害者権利条約への道:1987年イタリア提案とインクルージョンの国際的歩み

長瀬修 / Osamu Nagase 障害学者・障害者権利運動活動家

デザインング・インクルージョンとコミュニケーション_「光、音、言葉」

福島智 / Satoshi Fukushima 東京大学RCAST学際バリアフリー研究分野 特任教授

多様ないのち輝く未来社会のデザイン～クラゲ館の旅路:We're all minorities!!!～(オンラインにて参加)

中島さち子 / Sachiko Nakajima 大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー(「いのちを高める」)

利他の蓮華

イントロダクション デモンストレーション/制作解説

【登壇者】

- 神崎亮平 東京大学名誉教授、
東京大学RCAST 先端アートデザイン分野
シニアリサーチフェロー
- 松長潤慶 高野山大学学長
- 尾上恵治 株式会社尾上組代表取締役社長、宮大工
- 藤原和博 富士通株式会社デザインセンター
クリエイティブデザイナー
- 幸島柚里 株式会社資生堂ブランド価値開発研究所研究員
- 益子遼祐 折り紙アーティスト、
東京大学大学院情報理工学研究所 博士課程
- 大島空代 東京藝術大学大学院美術研究科芸術学日本・
東洋美術史専攻博士課程



日伊友好クラシックコンサート

Concerto classico omaggio all'amicizia tra Italia e Giappone

【総監督】近藤薫 / Kaoru Kondo 東京大学RCAST先端アートデザイン分野 特任教授 / バイオリニスト

- 【出演】第1 バイオリン：近藤薫 【曲目】E. プザーニ：クラリネットと弦楽四重奏のための組曲ト短調 K.176
第2 バイオリン：戸上眞里 山田耕筰：赤とんぼ(編曲：ロベルト・グランチ)
ビオラ：中島悦子
チェロ：水野奈美
クラリネット：アレッサンドロ・ベヴェラリ

東京大学先端科学技術研究センター 先端アート・デザイン分野

「最適解」だけでなく「多角的な解」を

複雑化する社会課題には、科学技術が導く局所的な最適解や西洋の対処療法的な問題解決だけでは対処できなくなっています。モノづくり(科学技術)は、職人、機能の時代を経て、人間主義(Human-Centered)へと進化し、多くの糧を人類にもたらしました。一方で、予期せぬ地球規模の社会問題を引き起こしています。多様な人からなる複雑な社会では、未来の人類や環境、地球を見据えた、自然を中心とする「Nature-Centered」でインクルーシブな社会の実現を目的とする、新しいメソッドが必要です。先端アートデザイン分野は、自然と一体化する日本人の精神、他を慮る心を原点に、科学技術、アート、デザインを融合した「Nature-Centered」な世界を追求し、多角的でハイブリッドな解を創出します。

高野山會議

I T A L I A

登壇者紹介



ミラノ大学准教授・東京大学先端科学技術研究センター 客員准教授
大阪・関西万博イタリア館 文化・教育部門代表
Rossella Menegazzo

ミラノ大学文化・環境遺産学部東洋美術史准教授。東大先端研客員准教授。ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学で日本美術史を学び、修士号を取得。イタリア国内外で日本美術、デザインをテーマとした国際シンポジウム、展覧会や刊行物を手がける。アンブロジーアーナアカデミア アジア学会会員。2017年日本国外務大臣表彰受。2025年大阪・関西万博イタリアパビリオンの文化・教育部門代表を務める。



アンブロジーアーナアカデミア アジア学部長
Alberto Rocca

ミラノ大司教神学校で神学を修学後司祭に任命、モンツァで教区助手を務めたのち学業を再開。2003年ケンブリッジ大学国際関係学修士課程修了、ミラノ大学博士課程に進学。2008年よりアンブロジーアーナアカデミア歴史学研究科教授、アンブロジーアーナ絵画館長、2024年よりアンブロジーアーナアカデミアのアジア学部長。ミラノ大聖堂プロトディーコン。



高野山大学前学長、蓮華定院住職
添田隆昭

高野山大学前学長。高野山蓮華定院住職。京都大学文学部卒業、高野山大学大学院博士課程修了。2013年より8年間、高野山真言宗宗務総長を務め、開創1200年記念大法会等に携わる。2023年より1年間、高野山第524世寺務検校執行法印に就任。著書に「大師はまだお亡くなりですか」(高野山出版社)。



東京大学RCAST 先端アートデザイン分野
特任准教授 / デザイナー
吉本英樹

東京大学工学部航空宇宙工学科、同修士課程修了後渡英、2016年英国 Royal College of Art, Innovation Design Engineering 学科博士課程修了。2015年にロンドンでTangent Design and Invention Ltd 創業。2020年より工学とデザインの両分野で活躍し受賞多数。自身のスタジオ「Tangent」では世界的な高級ブランドを顧客に様々なデザインプロジェクトを手掛ける。2021年和歌山県文化奨励賞受賞。



東京大学名誉教授 東京大学RCAST先端アートデザイン分野
シニアリサーチフェロー
神崎亮平

筑波大教授を経て2004年より東京大学教授。2006年より同大学先端科学技術研究センター教授。2016年から2020年まで同センター所長。生物知能を工学に活用する研究に従事。橋本市文化賞(2015)、和歌山県文化賞(2020)、ミラノビコッカ大学名誉学位(2019)、2021年より「高野山會議」主宰。



東京大学RCAST 先端アートデザイン分野
特任准教授 / デザイナー
伊藤志信

デザイナー。ミラノ工科大学特任教授、多摩美術大学客員教授、東京大学先端研特任准教授。空間、先行開発、プロダクトのデザインコンサルタンタを行う。「Woman Made great woman designers」掲載。IFDesign賞 / 独、Compasso D'Oro賞 / 伊、Reddot賞 / 独、等を受賞。2019年「Mastro d'arte della Pietra」の称号を授与。



東京大学RCAST先端アートデザイン分野アドバイザー
ソニーグループ株式会社クリエイティブセンター センター長
石井大輔

1992年ソニー入社。ハンディカム、ウォークマン®、AIBOなどのプロダクトデザインを担当。2度の英国赴任を経て、AIロボティクス、モビリティ、ドローンなどの新規領域や、R&D、コーポレートブランディング等幅広い領域のID/UI/UX/CDを含む統合的なクリエイティブディレクションを担う。2021年よりセンター長に就任。2016/2021 IF Award 審査員(ドイツ)、2019/2022 DFA Award 審査員(香港)、2022-2023 ミラノ工科大学客員教授。



コメエコ研究開発部門責任者
Lorenzo Bono

パヴィア IUSSで経済学と経営学を専攻、統合環境管理の修士号を取得。2001年からAmbiente Italia Srlに勤務、地域と都市部の持続可能性に関する計画、設計、統合管理のプロジェクトマネージャー兼上級専門家として、特にHorizon 2020、LIFE等国境を越えた協力プログラム計画の調整に携わる。2021年よりコメエコ研究開発部門責任者。



株式会社日誠産業 代表取締役社長
折り鶴再生「恩返しプロジェクト」
平尾昭一郎

1963年2月8日生まれ。2002年株式会社日誠産業・代表取締役役に就任。2015年エコプロダクツ推進協議会長賞を受賞、2017年循環型社会形成功労者環境大臣賞を受賞、2019年グッドライフアワード実行委員会エシカル賞を受賞。2020年ACAP消費者志向活動を表彰される。2022年消費者庁より内閣特命大臣表彰を受ける。



東京大学RCAST 先端アートデザイン分野
特任教授 / デザイナー
伊藤節

建築、インテリアからプロダクト、クラフトまで多岐にわたるデザインを手掛けるデザイナー。STUDIO ITO DESIGN 創業者。Compasso d'Oro賞(伊)、Reddot Best of the Best賞(独)、iF Design賞(独)、Good Design賞(米)等受賞。ミラノ工科大学特任教授、筑波大学芸術系教授、東大先端研特任教授。



東京大学RCASTインクルーシブデザインラボ 准教授
並木重宏

筑波大学で生物学の修士号を取得、米国ハーワードヒューズ医学研究所にて動物飛行の研究に従事する間に神経難病が進行、長期間の入院の後、車椅子を使って大学に復帰。東京大学着任後はバリアフリー分野研究に取り組む。



障害学者・障害者権利運動活動家
長瀬修

東京大学先端科学技術研究センター連携研究員。立命館大学生存学研究所 上席研究員、障害学会国際委員長。インクルージョン・インターナショナル事務総長。青年海外協力隊員としてケニア、PKO要員としてカンボジア、選挙監視員としてパレスチナで活動。国連事務局障害者班の職員としてウーエンとニューヨークで勤務。



東京大学RCAST学際バリアフリー研究分野 特任教授
福島智

1962年12月25日神戸生まれ。9歳で失明、18歳で失聴。盲ろう者となる。1983年、東京立大学に入学。盲ろう者で全国初の大学進学を果たす。同大博士課程を終え、同大助手、金沢大学教育学部助教授を経て、2001年に東京大学先端科学技術研究センター助教授。2008年から同センター教授。2023年より同特任教授。1991年から全国盲ろう者協会の理事を務める。2001年から世界盲ろう者連盟アジア地域代表。博士(学術)。



大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー(「いのちを高める」)
中島さち子

音楽家・数学研究者・STEAM教育者。(株)steAm 代表取締役。(一社)steAm BAND 代表理事。大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー、内閣府 STEM Girls Ambassador、東京大学大学院数理科学研究科特任研究員。国際数学オリンピック金メダリスト。資生堂クレド・ボー・ボーテより、STEAM分野(科学、技術、工学、芸術、数学)の教育に貢献した女性を表彰する「Power of Radiance Awards 2025」を受賞。音楽数学教育と共にアート&テクノロジーの研究を進める。



東京大学RCAST先端アートデザイン分野 特任教授 / バイオリニスト
近藤薫

東京藝術大学をアカンサス賞を受賞し卒業後、同大学院修了。東京フィルハーモニー交響楽団および Future Orchestra Classics コンサートマスター、バンクーバー・メトロポリタン・オーケストラ首席客演コンサートマスターを務める傍ら、リヴァラン弦楽四重奏団を主宰。著書「金のオタマジャクシ。そして感性的対話：世界に音楽が必要な理由」。東京音楽大学講師。JST「さきがけ」領域運営アドバイザー。愛知県出身。